

紫波町都市計画マスタープラン（案）に係る意見公募結果

1 意見公募の実施状況

- (1) 実施期間 令和6年 12 月 17 日（火）～令和7年 1 月 14 日（火）
- (2) 周知方法 町ホームページ、町広報、町 LINE 配信
- (3) 閲覧場所 町ホームページ、各地区公民館、町図書館、都市計画課
- (4) 意見提出 1 名から 4 件の意見等をいただきました

2 意見等及び町の考え方

関連箇所	意見の要旨	町の考え方
5-2 交通体系の方針	町中心部とする JR 紫波中央駅東側の施策には理解できる一方で、岩手医大の開設と近い将来推測される盛岡西バイパス南進に伴い、国道 4 号線に交通量増が推定される。 町内南北を結ぶ主要路線（国道 4 号線・県道 13 号線・農免道路）の交通量増加が容易に予想され、JR 紫波中央駅東・西側から北進する車両が、古館地区の狭い道路に集中するため、道路の幅幅・新設と安全対策が必要である。	交通体系の方針において、「都市計画道路北日詰朝日田線と県道古館停車場線を接続する、国道 4 号とは別の南北に連絡する幹線道路を確保し、古館地域の交通の利便性の向上と古館駅の利用促進を図る」としており、現在進めている都市計画道路の整備進捗状況を踏まえながら都市計画決定に向けた検討を行ってまいります。 なお、当面の安全対策については、車両速度抑制やドライバーへの注意喚起等の対策や交通規制など、地域と協力して検討し、危険個所の解消に努めることとしております。
5-2 交通体系の方針	JR 日詰駅・紫波中央駅・古館駅と国道 4 号線東西住宅街（駅から 800 メートル以上）を結ぶ新たな交通網により利便性と JR 乗降客数増につなげ、自家用車利用低減方策も必要である。（県交通の日詰駅から盛岡駅線は利便性から矢幅駅にむけたい）	交通体系の方針において、「二酸化炭素排出量を減らして環境にやさしいまちづくりを進めるため、鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性を高めるとともに、公共交通機関相互の連絡など、総合的な交通体系を検討する」としております。 なお、総合的な交通体系の具体的な検討は、関連計画である紫波町地域公共交通計画により行うものであり、駅からの徒歩圏を超えるエリアと駅を連絡する新たな交通網等のご提案内容につきましては、当該計画の見直しや新

		計画策定の際の参考とさせていただきます。
5-5 都市防災の方針	地域防災面では、岩崎川西側住宅地（二日町地区）の水害対策として、当該住民への避難情報（避難路を含む）の早期提供と北上川接岸部付近へのため池（農業用水路拡幅を含む）などの設置など検討はどうか。	関連計画となる紫波町立地適正化計画の防災指針において、古館駅前地区における取組方針のひとつに「情報配信体制を強化し、早期の情報伝達体制を整備する」こととしております。 また、都市防災の方針において、「防災ため池や農業用排水路等の整備」を行うこととしており、ご提案内容につきましては、紫波町公共下水道雨水管理総合計画による対策結果を検証する際の参考とさせていただきます。
	JR 東北本線をまたぐ道路はアンダーパスが多く、防災上検討が必要と思われる。	関連計画となる紫波町立地適正化計画の防災指針において、鉄道アンダーパスの過去の通行止め実績も踏まえたリスク分析結果から防災上の課題を整理し取組方針を設定しています。 なお、国が主体となって進めている浸水センサの実証実験に町も参加しており、令和 6 年度は、町内アンダーパス 4 か所に浸水センサが設置されたことから、今後、効果について検証してまいります。